



# 大洗研究所における物品盗難事案を受けた 原子力機構の対応及び改善策について

令和4年6月10日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

## 事案概要

令和3年10月、大洗研究所照射材料試験施設(MMF)において、無施錠の状態(9箇所(非管理区域))で保管されていた消耗品のうち、ローディングドック(177点:約150万円)及び事務室等4箇所(64点:約30万円)から合計241点(約180万円相当)が職員により窃取されるという事案が発生した。なお、当該職員はその事実を認め、被害物品をすべて弁済(現物、一部金銭弁済)した。また処分として、令和4年3月18日付で本人を「諭旨解雇」、管理監督する立場にあった職員1名を「戒告」とした。

## 事案の要因

### ①カルチャー

- ・不正を未然に防止する健全な職場環境の醸成が不十分であった
- ・明確な経営目標を職員全員が共有し、前向きで一体感を持った組織運営に至っていなかった

### ②プロセス

ガイドラインに基づく物品管理が浸透しておらず、組織としての管理方法が不十分であった

### ③パーソナリティ

コンプライアンスに対する意識が結果として希薄な面があった

## 要因に対する対策

対策① 不正を発生させない(未然防止)組織文化の醸成

対策② 不正防止プロセスとしての物品管理の改善

対策③ コンプライアンス教育による役職員全員の意識改善

## 対策①不正を発生させない(未然防止)組織文化の醸成

不正を発生させない(未然防止)組織文化を醸成するためには、その前提として、職場での不正や異常の兆候(予兆)を早期に発見し、安全管理を含むリスク管理が普通にできる組織とする必要がある。そのためには「明るく風通しの良い、そして規律ある職場」の形成が最重要実施事項である。

理事長が明確な経営方針を機構内に示し、それを実務実行する各組織の職員一人一人まで浸透させることで、機構全体での一体感を醸成し、人的資源を最大限活かす業務運営を目指す。

- ✓ 理事長は中長期計画に基づく各年度の経営方針を明確に示し、それを実務実行部隊まで広く浸透させることで、職員全員が明確な業務目標を持ち、やりがいを感じる職場風土の醸成に努める。
- ✓ 特に意識して職員各階層と接する機会を設け、実務実行部隊の生の声を吸い上げ、あるいは経営方針を解説することにより双方向の意思疎通を図り、必要に応じそれを経営方針にフィードバックする。また、職員とのコミュニケーションの重要性に思いを馳せ、「理事長メッセージ」「職員とのタウンミーティング」などを通じて経営の考え方を広く発信する。
- ✓ 健全な組織文化の醸成の担い手は実務実行部隊の運営責任者である課長にある。課長は機構全体の経営方針を受け、それを具体化するとともに、配下職員という人的資源を最大活用するために日頃から「活気あふれる、風通しの良い、そして規律ある」職場環境の醸成に努める。ついては課長の意識向上を図るため、新たな教育機会を設ける。
- ✓ 各課の取り組みに差異が生じないように、また職員の声拾い上げるために、新たな取り組みとして次長に職場環境づくりの推進役を任せ、部長昇進のためのキャリアとして位置づける。

## 対策②不正防止プロセスとしての物品管理の改善

- 大洗研究所における試験研究用消耗品(工具、替刃、バッテリー等)について
  - ✓ 員数等の管理がし易い2箇所(小型倉庫、ローディングドックの保管棚)に集約し、施錠管理を徹底する(R4.3実施済)とともに、台帳管理による定期的な棚卸を実施した。(R3.11実施済)
  - ✓ 台帳管理が困難な事務用消耗品(トナーカートリッジ、テープカートリッジ等)については、施設内の3箇所から管理がし易い1箇所(居室:人目に触れる場所)に集約した。(R4.6実施済)
- 上記の対策を踏まえ、機構全体において消耗品を試験研究用消耗品と事務用消耗品に区別し、前者については施錠管理及び台帳管理を徹底するよう「物品管理のガイドライン」を改訂し、周知するとともに、定期的に遵守状況を確認・指導する。また、不要不急の物品取得を抑制するため、物品発注時における在庫量確認を徹底する(発注量の適正管理により余剰品の発生を防止)。

## 対策③コンプライアンス教育による役職員全員の意識改善

- 全職員に対する本事案を踏まえた意識付け対策の拡充

### 多様なコンプライアンス教育の実施により、全職員に対して継続的な意識付けを図る

- ✓ 新たにeラーニングを実施するとともに、最新の情報を反映したコンプライアンスガイドブックの周知等により全職員への継続的な意識付けを図る。
- ✓ 機構外のコンプライアンス事案を踏まえた外部講師による研修等の受講機会拡大(オンライン開催やビデオ受講の活用)により、全職員へのコンプライアンス意識の浸透を図る。

# 參考資料

## 従来のローディングドックでの保管状況



未施錠の棚に保管

## 改善後



キャビネットを設置し施錠管理

## 大洗研究所照射材料試験施設から窃取された消耗品

■総数:241点 金額:約180万円  
主な品名は以下のとおり。

- ・バッテリー 12個
- ・切断機替刃 58個
- ・水銀ランプ 41個
- ・融着テープ 19個
- ・トナーカートリッジ 9個
- ・テープカートリッジ 44個
- ・圧着工具 4個
- ・作業着(タイベックスーツ) 10着
- ・ブロックゲージ 4個
- ・補助充填パテ 8個 他32点